

① 9月24日(土) 小三治(柳家)



| | | | | |
|-------|----|-------------------------|--------------------|----------------------|
| 1939年 | 東京 | 出囃子: 二上り | 囃火事 (うまやか じ) | 死神 1998年 3月18日 |
| 生まれ | 出身 | 鞆鼓 (にあ がりか っこ) | 1996年 8月27日 | 42分43 秒 |
| 現役 | 身 | | 34分40秒 | |

② 論語 郷党第十 厩焚

厩(うまや)焚(や)けたり。子、朝より退きて曰く、「人を傷(そこな)えりや。」馬を問わず。

(口訳)

厩が焼けた。先生は朝廷から帰って来ると、「人に怪我はなかったか」と言われ、馬のことは問われなかった。

(鑑賞 中国の古典 第2巻 論語 角川書店)

③ 死神

落語。明治20年代に三遊亭円朝(えんちよう)が、イタリアのオペラ『靴直しクリプスノ』から翻案したといわれるが、明治30年代に三遊亭円左が口演してからよく知られるようになった。「ステテコの円遊」*はこれを改作して『誉(ほまれ)の帯間(たいこ)』と題した。借金に苦しむ男が自殺しようとしているところへ死神がきて、死神が枕元(まくらもと)にいれば病気は治らないが、足元にいると治るといって死神退散の呪文(じゆもん)を教える。男はそれを知って医者になって大もうけをするが、遊びすぎて金がなくなる。その後、金持ちの病人によばれ、枕元に死神がいるので寝床を1回転させて病人を全快させるが、だまされた死神が怒り、男は生命のろうそくの所へ連行される。いまにも消えそうならうそくが自分の生命だといわれた男は、ふるえながらろうそくを継ぎ足そうとするが、ろうそくは継げず、「ああ消える」といってぱったりと倒れる。十分にくふうを凝らした六代目三遊亭円生(えんしよう)の「しぐさ落ち」が好評であった。(関山和夫) (C)小学館 スーパー・ニッポニカ2001)

*: 漱石「三四郎」で言及された円遊

④ 参考文献 西本 晃二著「落語『死神』の世界」



内容説明

外国種の落語「死神」の原話はグリム童話かオペラ作品か。日本に仕入れた人物は誰か。落語にしたのは近代落語の祖・三遊亭円朝なのか。落語「死神」のルーツを探り、その構成要素、成立の経緯、死神の日本化について解明する。

著者紹介

〈西本晃二〉1934年奈良生まれ。カナダ・ラヴァル大学文学部大学院卒業(文学博士)。東京大学文学部長等を経て、政策研究大学院大学副学長。専攻はルネッサンス研究。著書に「現代のフランス語」ほか。

⑤ 小三治の名著



目次

ニユーヨークひとりある記……………9
めりけん留学奮戦記……………46
玉子かけ御飯……………104
駐車場物語……………119
寄席、いま昔……………150
摩六師匠と怪談噴……………162
女の色気……………181
フランク水井のゴルフ……………187
バイクは最高……………203
陛下の思い出……………216
パリ句会……………236
CD講座……………261
歩くが勝ち……………273
郡山先生「華せつて何だろ?」……………280
日本の塩はまずい!……………310
ミツバチの話……………340
小三治的ころろ「マイ・プレジャー」のススメ……………363
口上……………387
あとがき……………408
解説 矢野誠……………412



目次

小さんにもお稽古さんにもなる落語……………9
熊の胆の話……………40
笑子の墓……………72
わたしの音楽教育……………103
香港、台湾句会……………168
初めてのハワイ……………183
張……………197
初座……………207
Which is my way?……………225
黒門町の「榎」……………243
題し……………265
クラリネットと「センチメンタルジャーニー」……………276
夫婦のえん……………290
刈りたての頭……………297
病気あれこれ……………308
野田君のこと……………313
パンダ死す!! 円生も……………337
外人天国……………363
宇宙は膨張している……………388
パソコンはバカだ!!……………420
餅つき大会……………441
あとがき……………460
師匠! いい本をありがとう。*小沢昭……………488

以上